

津ライスニュース 令和3年産 第2報

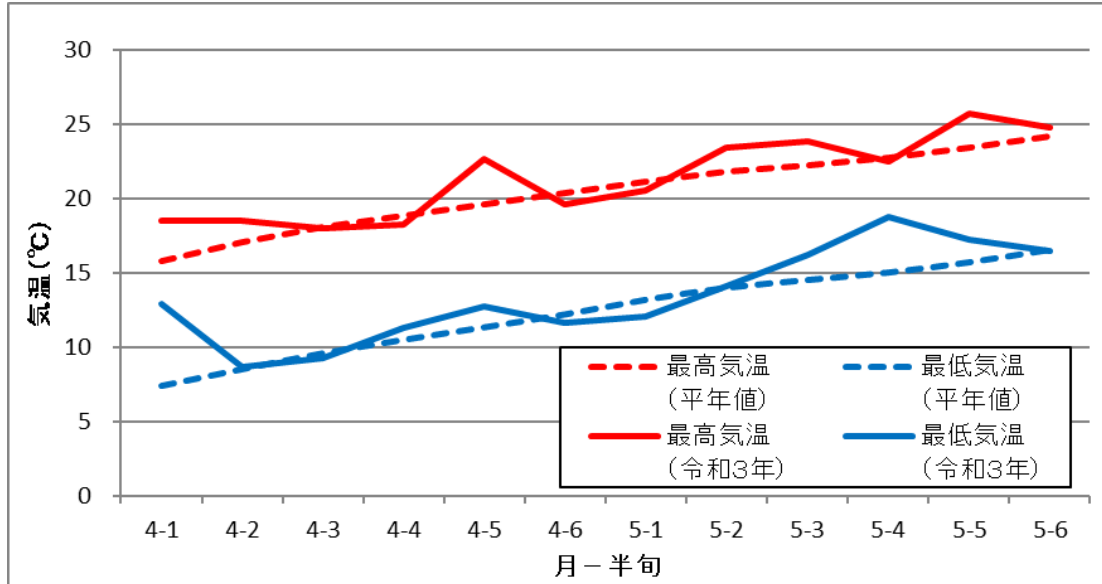
令和3年6月7日

津地域農業改良普及センター 電話:059-223-5103

気象経過

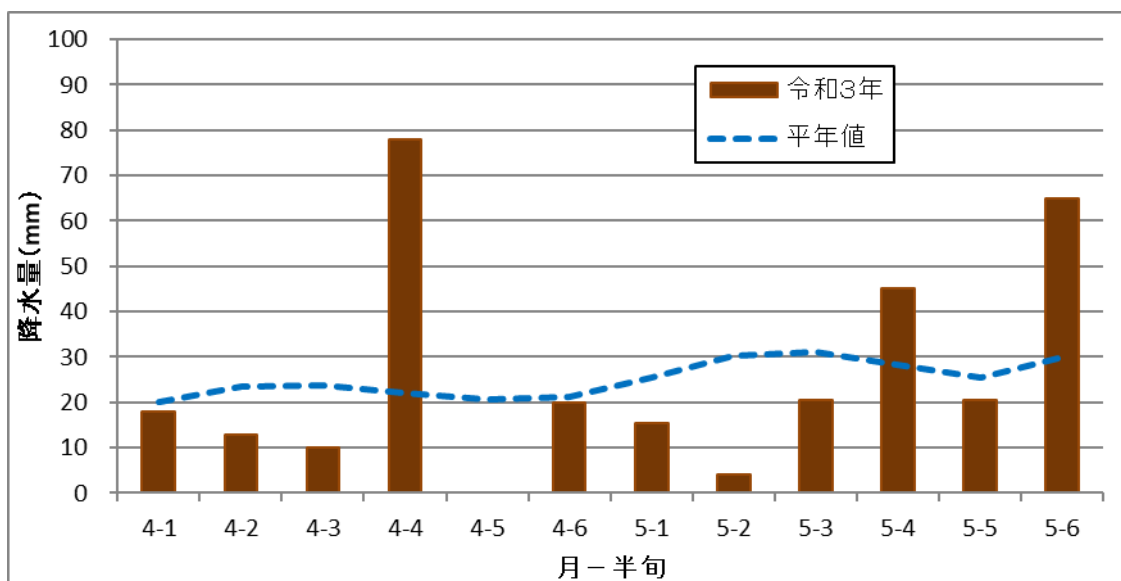
<気温>

4月第6半旬から5月第1半旬にかけて気温が低く経過しましたが、それ以外は平年並み～やや高く推移しました。



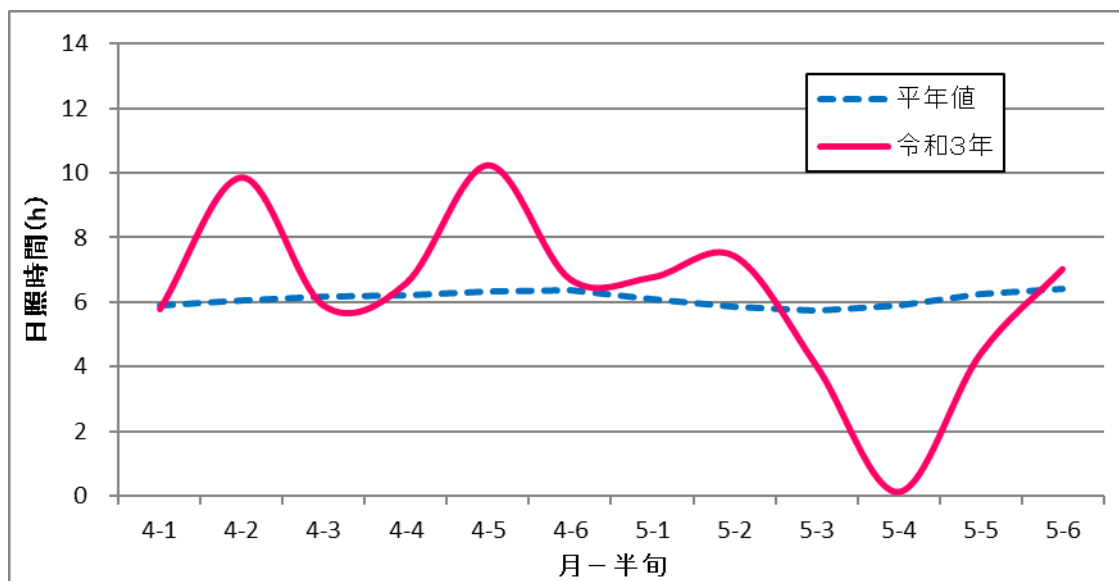
<降水量>

4月第4半旬に、まとまった雨が降る日がありましたが、4月第5半旬から5月第3半旬までは降水量は少なめでした。5月16日に梅雨入り後、降水量が多くなっています。



<日照時間>

5月第2半旬までは日照時間が多く推移していましたが、5月第3半旬から第5半旬にかけて日照時間が非常に少なくなりました。特に梅雨入り直後の5月第4半旬は雨の日が多く、ほとんど日照がありませんでした。



生育の概況

4月下旬に風の強い日があり、植え傷みしたところがありました。また、4月第6半旬から5月第1半旬にかけて気温が低く、4月下旬に田植えをしたところを中心に活着がやや遅れました。その後、日照不足と降雨による低水温などの影響により、稲の生育は、葉伸び傾向で茎数が少なく、葉色が薄いという状況です。農業研究所(嬉野)の作況田でも、平年に比べ草丈がやや長く、茎数はやや少なくなっています。

令和3年産水稻生育基準田 調査データ

R03年産水稻

R03.6.1時点

調査場所	移植日	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉色 SPAD	葉齢 L	移植後日数
殿村	4月15日	32.8	252.0	38.2	7.6	47
安濃	4月25日	35.5	205.9	36.7	6.6	37
白山	4月27日	31.6	187.5	37.5	6.2	35

(参考)令和2年産水稻生育基準田 調査データ

R02年産水稻

R02.6.1時点

調査場所	移植日	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉色 SPAD	葉齢 L	移植後日数
殿村	4月18日	34.9	319.7	44.0	7.0	44
安濃	4月25日	31.1	230.0	40.8	6.1	37
白山	4月30日	33.1	99.2	37.1	5.8	32

○農業研究所(嬉野)の作況試験田のデータ

【調査時期: 移植+30日後(5月26日)】

品種	年度	移植日 (月.日)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (L)	葉色 (SPAD)
コシヒカリ	R3	4月26日	34.8	319	7.0	38.3
	平年値(H22~R2)		28.7	340	6.8	38.6
三重23号	R3	4月26日	38.6	319	7.3	42.2
	平年値(H24~R2)		31.6	347	7.4	42.1

病害虫の発生状況と対策

<いもち病>

いもち病発生の適温(25～28℃)となる時期を迎えています。本年は梅雨入りが早く、水稻が軟弱徒長気味の生育であることに加え、今後も7月半ば頃まで曇りや雨の日が続くと予想されており、本田でのいもち病発生が懸念されます。

いもち病発生予測支援システム(ブラスタム)による発生予測において、津管内では5/19に好適条件が確認されています。ほ場を見回り、いもち病の初発の早期発見と適期防除に努めましょう。感染源(補植用の置き苗など)を減らすことも対策の一つです。

いもち病発生予測支援システム(ブラスタム)

【<https://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/39584007416.htm>】

または「三重県 ブラスタム」で検索を。

<斑点米カメムシ類等>

今後、畦畔等、ほ場周辺での発生増加に注意しましょう。

- ・カメムシ類の増殖場所となるような畦畔雑草を早めに除去しましょう。
- ・草刈りは出穂10日前までに行いましょう(出穂直前や出穂後の草刈りは、水田への害虫侵入を助長します)。

今後の栽培管理

<水管理>

- ・中干しまでは、できるだけ浅水管理(2～3cm)にして日中の水温確保に努め、分けつのは発生を促しましょう。
- ・例年なら間もなく中干しの時期を迎えますが、本年は茎数が十分確保できていないところが多く、生育状況を見ながら中干しの開始時期を調整しましょう。(中干し開始は株当り茎数が約20本となった頃が目安)
- ・中干しは土壌中に酸素を入れることによって、根の活力を高めるとともに稲の株元を強くして倒伏しにくくする効果や、土を硬くして収穫時の作業性を高めるなどの効果があります。適切な中干しの励行によって稲の生育を最適に保ちましょう。
- ・中干しは、土壌表面に小さい亀裂が入れば終了です。強い中干しは、かえって根を傷めることになるので、注意しましょう。
- ・中干し後は、こまめな間断かん水を行い、土壌に適度な水分と酸素を供給し、根の健全化に努めましょう。(長期間水を溜めておくと、酸素が不足することによって、根の老化や根腐れによる下葉の枯れ上がりが進みます。)

<登熟向上資材の施用>

近年、気候変動による猛暑などで水稻の収量や品質が低下しています。安定生産のためには土づくりが重要であり、特にケイ酸分の補給が必要です。作付けまでにケイ酸を施用していないほ場では、水稻生育期間中での施用をお勧めします。

(資材例) けい酸加里 30～40kg/10a (時期)田植え後40日頃